特集8 エココンシャスに生きる

坂下道良さん

楽農舎なごみの里観光農園 代表

安全でエコな農業で人と土にふれあう喜びを。

マンションのベランダでブルーベリーの苗を育てながら考えた「食の安全」。
体にいいものを作りたい、環境にいい農業をしたいという思いがふくらみ、
脱サラをして湖西・安曇川の休耕田を借りて農業を始めた坂下道良さん。
野菜くずや生ゴミ、鶏糞を肥料や飼料に有効活用する循環型農業を実践し、
地域の人と人を結ぶ農業を模索する坂下さんの農園生活をご紹介します。

ブルーベリーから考えた「食の安全」脱サラして就農へ。

見わたす限り田畑と森林が続く高島市安曇川町の田園風景の中、ブルーベリーを摘みとって一粒口に含むと、今まで味わったことのないさわやかな甘みに思わず「おいしい！」と歓声をあげてしまいました。

「一般に流通しているブルーベリーは熟す前に収穫するから本来の味とは違うんです。うちのは完熟。それに農薬を使っていないから、摘んでそのまま食べられるのもいいでしょ」と「楽農舎なごみの里観光農園」代表の坂下道良さんは日焼けした顔をほころばせます。休耕田を借りて就農したのが5年前とは思えないほど、すっかり農園主らしい風貌です。

きっかけは8年前に何気なく買ったブルーベリーの苗木3本。意外に育てやすいブルーベリーに魅せられ、手に入る限りの25品種をマンションのベランダで栽培して研究するうちに、食の安全性への関心が高まりました。ミニ菜園がしたくて庭付きの借家に転居し、野菜作りにはまった坂下さんは、過酷な長時間労働で心身の限界を感じていた会社勤めを辞め、40歳で農業の世界に飛びこむことを決意！

「どうせ疲れるなら自分が好きなことをして疲れる方がいいと思ったんです」

愛犬やヤギ、鶏を抱き寄せてみせる底抜けの笑顔には、つらい日々の影は微塵（みじん）もありません。

1

2

1. 自然豊かな安曇川で坂下さんが始めた「楽農舎なごみの里観光農園」。春のイチゴ狩り、夏のブルーベリー摘み、秋のイモ掘りなど、農薬・化学肥料を一切使わずに栽培された農作物の収穫体験が楽しめる。*2.* 農園のハウスから作業小屋・柵まで、すべて坂下さんが不用品を譲り受けて自分で作ったもの。

profile

坂下 道良（さかした・みちよし）

「楽農舎なごみの里観光農園」代表。愛媛県に生まれ、18歳のとき就職を機に滋賀県へ転居。製造業の会社勤務を経て、40歳で安曇川に体験農園をオープン。2006年には農業を通して地域交流の場を提供するNPO法人「高島なごみの里」を立ち上げる。

3. ヤギは雑草駆除を担当。栽培しているヒマワリや野菜を食べてしまったりと時には失敗も…。存在そのもので獣害を防ぐ役割も果たしている。*4.* 収容施設から引き取った白いジュンと、近所の人からもらった黒いアッサムは猿追い犬として活躍。農園に接した森に生息する猿や鹿・猪はネットだけでは防ぎきれず、独自の工夫を凝らした獣害対策をしている。

4

3

5

人も環境も心地いい 新たなスタイルで みんなが楽しい農業！

6

農業の経験がほとんどないまま、「楽農舎なごみの里観光農園」を始めた坂下さんの信条は「考えついたら即実行」。わからないことは本などで調べて、まず実践してみる。誰かに教えてもらうのではなく、失敗から学んで身につけていくのが坂下さんの流儀だそうです。

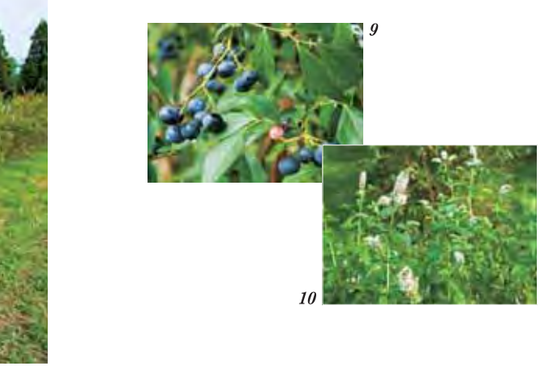
坂下さんが目指したのは、①農薬と化学肥料を一切使わない〝安心栽培〟、②生ゴミや鶏糞を肥料に活用する〝循環型農業〟、そして③〝人と人を結ぶ農業〟。今までになかった農業を目標としているため、栽培法も農園経営もすべて手探り。実践と失敗を通して自分だけのやり方をみつけてきました。

第一の〝安心栽培〟を支えるのは畑の土です。土の中にいる微生物が活性化すれば作物はおいしくなるといいます。畑にまくのは米ぬかやもみ殻、生ゴミを発酵させた肥料など天然由来のもののみ。畑の雑草は地表の水分の蒸発を防ぐためにある程度残し、雑草刈りは4頭のヤギにまかせ、ブルーベリー園の周囲には害虫が嫌うミントを植えるなど、農薬と化学肥料を使わない工夫を凝らしています。「野菜作りは、いかにいい土を作るかなんですよ」と坂下さん。

第二の〝循環型農業〟には「環境にいい農業を」という坂下さんの思いがこめられています。野菜作りとともに養鶏を行うことで、鶏のフンは野菜の肥料に、出荷できない野菜くずや雑草は鶏の餌にと農園内で循環。さらにゴミとして捨てられていた地元の豆腐店のおから、米ぬかや古米・くず米などを鶏の飼料に活用。そして昨年は、家庭の生ゴミから作った堆肥（たいひ）を野菜や卵と交換する会員制の「なごみの里エコクラブ」を立ち上げました（写真7説明参照）。

第三の〝人と人を結ぶ農業〟は、体験型農園としてお客さまに農作物の収穫を楽しんでもらうほか、障がいがある人もない人も働ける職場にしたいと考えてのこと。根底にあるのは「みんなに農業で楽しんで欲しい」というシンプルな気持ちです。現在は週2回、地元の障がいのある方たちが農作業に通っています。

まだまだ試行錯誤が続いているようですが、畑や果樹園をめぐって説明したり、獣害対策として猿を追うようにしつけた愛犬やヤギと戯れる坂下さんは、とにかく楽しそう。5年前、働く人も遊びにくる人も楽しい農業を求めて坂下さんがまいた種は今、安曇川の土に根を下ろし元気な若葉を茂らせています。



14

9

10

8

8. 9. 農業を始めるきっかけとなったブルーベリーは農園のシンボル。「ブルーベリーはそのまま食べても、凍らしてシャーベット状にしてもおいしいですよ」と坂下さん。*10.* 害虫除けとしてブルーベリー園の周囲に植えられたミント。近くに植えることで共栄する植物を〝コンパニオンプランツ〟という。

7

5. 収穫したタマネギ。農園では季節のさまざまな野菜を栽培する。*6.* 平飼いされているのは日本で唯一の純国産鶏「後藤もみじ」。竹の粉や木屑を床に敷いた鶏舎は、鶏糞の臭いもほとんどなく、元気な鶏たちをかき分けて有精卵を拾う体験ができる。*7.* 「なごみの里エコクラブ」（入会金3,000円）では、入会時に生ゴミボックスと発酵を促進する自家製ぼかし1kgが渡され、ボックスいっぱいで300円分の野菜か卵と交換できる。会員は随時募集中。

11

12

11.12. 子どもからお年寄りまで、誰でも楽しく農業体験ができる〝体験型農園〟。みんなで収穫すると楽しさも格別！（写真提供／楽農舎なごみの里観光農園）*13.* トラクターで畑を耕し、秋に向けてジャガイモやニンニクなどの植えつけを準備中。*14.* 坂下さんと常勤スタッフの藤原浩二さん（写真左）。ご近所のパートの方、NPO法人のスタッフなど仲間と一緒に1ヘクタールを超える農地を管理している。

13

data

楽農舎なごみの里観光農園

高島市安曇川町下古賀 2579　090-1150-3659
http://homepage2.nifty.com/rakuno-shya/
年中無休（冬期を除く）
卵拾い体験、ブルーベリー園（7月20日頃～9月中旬）、イモ掘り園（9月中旬～11月中旬）、イチゴ園（5月）、季節の野菜の収穫体験など。気候によりイモ掘りやブルーベリー摘みなどの体験期間が前後するため、事前にお問い合わせを。

取材後記

完熟した農薬ゼロのブルーベリーやプチトマトに「本物の味ってこんなの！」と常識がひっくり返りました。安曇川の緑の中、笑顔がすてきな坂下さんと犬やヤギ、鶏たちに囲まれているだけで楽しくてのびのび。休日に友だちを誘ってまた遊びに行きたいです。（A）